

平成 26 年度弘前大学グローバル人材育成事業モデル事業

学 生 市 民 等 協 働 プ ロ グ ラ ム 報 告 書

申 請 者	所属部局・職名	保健学研究科
	氏 名	小山内 隆生
事 業 名	学生市民等協働プログラム オーストラリアにおけるリハビリテーション事情(作業療法を中心に)	
事業の概要とその成果		
<p>事業概要:オーストラリアのメルボルンのバリアフリーの状況調査と、Deakin University における作業療法教育施設の視察並びに英語による講義の聴講、オーストラリアの作業療法士並びに作業療法学生との意見交換を通して、国際的な視点で、リハビリテーションを基本とした新たな産業創出、高齢化が進む日本社会における、新たなリハビリテーションシステムについて提案できる人材を養成する。</p>		
目的		
<ul style="list-style-type: none">● “メルボルン”の障害者対策やオーストラリアのリハビリテーションの実情を視察するとともに、Deakin University での英語での講義や意見交換を通して国際的な感覚を養う。● リハビリテーションの先進国におけるリハビリテーションシステムの視察を通して、その利点と欠点、および日本に将来取り入れるべき考え方を習得する。● リハビリテーションの専門職の養成施設を見学し、外国の専門職養成の理念と日本の専門職養成の理念の違いを学ぶ。● 英語による講義の聴講や、オーストラリアの学生との交流を通して国際的な感覚や視点を学ぶ。● 観光都市であるメルボルンのバリアフリーの状況やリハビリ関連産業を視察し、弘前市のまちづくりのヒントを学ぶ		
研修内容		
Deakin University の見学		
作業療法教育システムについて講義を受けるとともに教育施設を見学し、海外と国内の教育システムの違いについて学んだ。		
大学スタッフとの意見交換を通して海外の大学教育についての理解を深めた。		
オーストラリアの作業療法士の仕事の内容や、障害者に対する訓練内容を聞いて、日本とオーストラリアの社会保障システムの違いについて学んだ。		
Deakin University 関連病院の見学		
回復期、慢性期の病院と総合病院を見学し、臨床の作業療法士の働く姿を通して、日本との違いや同じ点についての理解を深めた。さらに、作業療法士のオーストラリアにおける作業療法の基本的考え方を聞いて、作業療法に対する視野が広がった。		
メルボルンを中心とするその周辺都市を含む地域における障害者対策の視察		

道路の様子や、公共交通機関のバリアフリー対策について、調査した。その結果として、別添資料にあるように、参加した市民からの提言がなされた。

成果

学生の感想では、オーストラリアの作業療法の実情を実際に見たり、オーストラリアの作業療法士から、リハビリテーションについての考え方を直接聞いたり、意見交換をしたことで、作業療法士となることへの意思が明確になった。国際的な視点をもつことの重要性を認識した。外国をみることで改めて日本の良さを再認識できた。というものが多く、学生の意識が海外を視野に入れたグローバルなものになるきっかけをもたらした。

市民の参加者にとってもまた、学生と同様に国際的な視点を持つことの重要性がわかったと思われる。提出資料に弘前市への障害者対策への提言があるように、海外と比較して弘前市のあるべき姿を想像できる視点を獲得した。

以上、今回のプログラムは学生にとっては、将来の専門職としての国際的視点を獲得し、市民参加者にとっては、国際的視点で弘前市について考えるきっかけを与えたと考える。

以上